

2024 / 11 / 15

早稲田大学文学研究科

日本語日本文学コース

(Cultural Sciences Japanese Studies)

秋季コース別相談会資料

ISSN 0389-8636

国文学研究

国文学研究(第百一集) 令和六年十一月

早稲田大学国文学会

第百一集

「遊於松浦河」の趣向 ——先行文章の継承・継承—— 安倍虫麻呂と坂上郎女の月の歌 ——万葉集巻八における「天竺」の「麗」—— 夕霧巻再考 ——藤氏の「麗」の群れと「はろけ」—— 『平治物語絵巻』の詞書をめぐる一考察 戦争孤児の保護に挑む ——大寺院見「麗」の真意—— 『性的人間』自己探求の試み ——大寺院見「麗」の真意—— 『万葉集』における表記体が要求する文字表記について ——漢字・仮名遣いによる表記体から—— 澤崎 文 84	伊藤剣著「出雲国風土記の神話と思想」を読む ——出雲国風土記の神話と思想—— 遠藤耕太郎著「歌掛けのアジア——岩間リス族の歌掛けと日本文化——」 木村通子著「近世前期仏書の研究」 坂本清恵(編) 高桑いづみ・配川美加・星野厚子著 日本女子大学素書 「長明の伝承」——長明の伝承に関する学術的研究—— 坪井秀人著「戦後表現」(Japanese Literature after War) 御園生 保子 112 加藤 邦彦 109	飯泉 健司 98 岡部 隆志 102 堤 邦彦 105 舟山 凛太郎 43 中西 智子 28 松田 聡 14 井実 充史 1 山本 花純 71 ペン ト 勇亮(ヘンリー) 57
---	--	--

早稲田大学国文学会

『国文学研究』第201集(2024年11月)

【日本語日本文学コースがめざすもの】

文学の基本は言葉です。日本語日本文学コースでは、日本語とその歴史を探究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義とを幅広く考察します。言葉とは何か、文学とは何かを考究することは、日本文化の本質を理解しようとすることにほかなりません。それはまた、日本という座標から世界を認識し、さらに世界の諸文化とのゆたかな共生をめざす新たな文化を創造する出発点ともなることでしょう。

本コースが目的とするのは、まさにこのような形での、日本語日本文学の研究を通した明日の文化創造への貢献です。日本の国内外において、日本語日本文学への高度の認識と、その社会への還元力・応用力を持った若い世代を育てることは、世界的な文化情報センターでもある早稲田大学の重要な務めであり、他大学にはない長い教育の伝統と豊富な実績を持った、日本語日本文学コースが果たすべき役割であると考えます。

そうした理念と使命感に立ち、日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の目的です。とりわけ今日では、外国からの留学生を含めて、国際社会など多様な場で活躍できる、高度な学術研究が可能な若手研究者を養成することが、大きな課題になっています。学際的な分野への対応能力（専門応用能力）を培い、修士課程・博士後期課程のそれぞれにおいて、優れた修士・課程博士を育成し、日本文化ひいては21世紀の世界の学術に資するよう取り組んでいます。

日本文学の古典領域においては、上代・中古・中世・近世各時代の研究に対応し、近代・現代領域では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応しています。また、日本語学においては古語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・文法・方言など、多岐にわたる日本語学分野研究に対応する体制をつくっています。研究方法においても、実証的な資料調査、本文研究から、最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろっています。

主として日本文学または日本語学の研究者、国際社会を含めて広く日本文学または日本語学の教育・普及に携わることのできる人材、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成します。アジアを中心とする留学生も多く、それぞれの分野のゼミは、新たな見方・思考が交叉する活気溢れる場となっています。

みなさんにも、こうした日本語日本文学コースの一員として、日本文学・日本語学研究の高い志をもち、日本・世界の文化に貢献する役割を、ぜひ担っていただきたいと願っています。

【研究指導担当教員紹介】(2024 年度)

氏名	職名	現在の専門分野
----	----	---------

〈日本語学領域〉

加藤 大鶴	教授	日本語学
森山 卓郎	教授	日本語学
澤崎 文	准教授	日本語学

〈古典文学領域〉

高松 寿夫	教授	日本古代文学
陣野 英則	教授	日本古典文学、平安時代文学、物語文学
兼築 信行	教授	日本古典文学 和歌 文献学
和田 琢磨	教授	日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
池澤 一郎	教授	日本近世文学
河野 貴美子	教授	和漢比較文学

〈近現代文学領域〉

鈴木 貴宇	教授	日本近現代文学、大衆文化論
坪井 秀人	教授	日本近現代文学・文化史
十重田 裕一	教授	大正・昭和期を中心とする日本近代文学
鳥羽 耕史	教授	日本近代文学、戦後文化運動

【大学院日本語日本文学コース配当科目】(2024 年度)

* 早稲田大学 Web シラバス (<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>) でご確認ください。検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「日本語日本文学コース」を選び、検索を実行すると、日本語日本文学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。上代から近現代文学、日本語学の各分野をカバーして、専任教員および各分野の専門家が担当する非常勤講師による研究指導・演習・講義が用意されています。

【在籍学生数】2024 年度、() 内は 2023 年度

(領域)	(修士課程)	(博士後期課程)	
日本語領域	6 (3) 人	10 (10) 人	
古典文学領域	17 (19) 人	14 (18) 人	
近現代文学領域	23 (23) 人	22 (18) 人	
合計	46 (45) 人	46 (46) 人	92 (91) 人

*2024 年度の留学生の在籍学生は、修士課程 10 人、博士後期課程 13 人、合計 23 人

【取得資格】

教育職員免許状（専修免許状）

種類： 中学校教諭「国語」専修免許状

高等学校教諭「国語」専修免許状

※中学校教諭 1 種免許状、高等学校教諭 1 種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

【留学制度】（博士後期課程）

- ・コロンビア大学との DDP（Double Degree Program）
- ・UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

【修士論文・博士学位請求論文題目】

〈修士論文〉

2023（令和5）年度

○陣野英則

一条兼良の源氏学に関する研究

平安中期の物語文学における噂——『源氏物語』を中心として——子

『源氏物語』論——親子関係に着目して——

平安文学の英訳の研究

源氏物語の「偽作・補作」群に関する研究

○河野貴美子

釈信阿撰注釈書における漢籍引用の方法——類書転引と書籍名掲出を中心に——

尚歯会の研究——親和漢におけるテキストと図像の展開——

○宗像和重

夏目漱石初期作品論——視覚を司る〈身体〉の表象をめぐって——

塚原洪柿園研究

谷崎潤一郎論——一九二四年から一九三〇年まで——

○十重田裕一

井伏鱒二の地方表象——昭和初期小説における方言・少女・映像——

野上弥生子の大正期短編小説の研究——〈育児もの〉と愛情小説をめぐって——

○鳥羽 耕史

三島由紀夫文学における父性問題

家族に訪れる怪異——虚構の時代以降の文学・映像作品をめぐって——

澁澤龍彦研究——〈歴史〉のブリコラージュをめぐって——

星新一ショートショートが描くユートピア——前期作品の再定義をめぐって——

○澤崎文

インタビュー談話の日本語訳における性差の研究

2022（令和4）年度

○陣野英則

平安中期物語文学における人物の政治性の研究——『うつほ物語』と『源氏物語』を中心に——

○宗像和重

近代日記体小説の研究

芥川龍之介後期作品研究——後期作品に見る「狂気」と「無意識」——

大江健三郎初期作品論—〈性的人間〉の展開と変容—

○十重田裕一

大江健三郎『万延元年のフットボール』論——本文分析と聴き手論を中心に——

川端康成初期作品研究—「新しい文芸」は「死」を語りうるか—

探偵小説雑誌『宝石』の一九四六年——描き出された敗戦直後の日本社会

○鳥羽耕史

安部公房〈ノート体小説〉論—読者の応答可能性に向かって

初期変形譚から見る安部公房の方法——「デンドロカカリヤ」と「三つの寓話」をめぐって——

安部公房の中期作品研究

○坪井 秀人

〈ものさし〉から〈感性〉へ

〈博士学位請求論文〉

2023（令和5）年度

- ・日本「医事説話」の研究——中国医学知識の受容と展開——
- ・上代文学の表現と漢籍受容
- ・平安期漢文学研究——「おほやけ」の文書を中心に——
- ・立原道造研究——詩学および文学思潮——
- ・内田百閒研究——一九三〇年代から一九五〇年代の作品を中心に——
- ・上代文人達の表現世界—山田三方・「長屋王宅詩宴」・「和語」と「漢語」—

2022（令和4）年度

- ・室町時代における『万葉集』享受の研究
- ・現代日本語におけるとりたて副詞の研究
- ・物語文学にあらわれる「物語」——『源氏物語』を中心に——
- ・谷崎潤一郎研究——古典回帰と「観光のまなざし」——
- ・歌合の表現論的研究—村上朝前後—
- ・現代日本語における程度表現の展開

【修了後の進路】

修士課程

博士後期課程進学、中学・高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など

博士後期課程

大学・短期大学教員、中学・高校教員など

【入学試験】

- * 日本語日本文学コースが実施している入学試験
- * 出願資格などについては、事務所にご確認ください。

〈修士課程〉

- ・ 一般入学試験
- ・ 推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
- ・ 論文特別選抜試験

出願資格

早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。

- ・ 一般科目等履修生入学試験

〈博士後期課程〉

- ・ 一般入学試験

【早稲田大学国文学会】

- ・ 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース、教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻など、所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究会。
- ・ 大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行など、活発な活動を展開し、学術成果の報告と会員の交流の場となっています。

【問い合わせ・相談窓口】

ホームページ「日語日文」

<http://www.waseda.jp/bun-nihon-go-bun/>

日本語日本文学コース室

39号館5階2519研究室

開室時間（2024年度秋季）：

月火木金 12:00-17:00、水 12:00-14:40 講師・T Aが在室

メール：wnichibun@gmail.com